

# 《新世界》から発信されたドヴォルジャークの手紙と当時のアメリカ

その ②7



半 場 久 也

オルジヤークと知り合う

ニューヨーク、一八九四年五月十八日

『親愛なる友よ！

既に明日我々はヨーロッパへ出発します。  
それで私はあなたに御機嫌よろしくと言  
いたいのです！ さようなら！

コヴァルジークは今の住まいにとどま  
つて、あなたもご存知の通り、夏にはす  
ることにありつくでしょう。彼はザイド  
ルのところで夏の間、職を得ました。け  
れども私の思うには、こここの貧しい人々  
にとつて、我々を抜きにしては厳しいも  
のになるでしょう。しかし、どうやつた  
らよいのでしよう。この際、仕方のない  
ことです。

我々が故郷へ帰ることがどんなに嬉し  
いことか、あなたもはつきりと分かつて  
おられるでしょう。特に我々のように長  
い間、故郷を失つたと思う人間にとつて、  
また、そうしたこと慣れていない人間  
にとつて！

州スピルヴィルのチエコ語及び英語学  
校の教師。自分の息子の仲介で、ドヴ

会えるという大きな楽しみが失われたの  
です。というのは、彼は三月二十九日に  
八十歳で亡くなつてしまつたのです。神  
よ彼に永遠なる喜びを！

ヴィイソカーモ楽しいけれど、我々が気  
に入ったスピルヴィルも再び訪れたいと  
思つてます。我々は神の存在を望み  
我々が再会することを望んでいます。何  
か一言でもブシープラムの近郊のヴィイソ  
カーモの方へ手紙を書いてください。そし  
たらどんなに嬉しいことでしょう。

スピルヴィルの神父ビーリーさんにど  
うかよろしくお伝え下さい。

おじいちやん、おばあちゃん、ビーリ  
ーおじいさんの他、皆さんのこと我々  
は思い出しているのです！

皆さんお元気で。神様が守つてくれて  
います。では再会するまで！ あなたと  
あなたの愛する人々全員にキスを』

コメント 「ドヴォルジヤークはいよい  
よ、この夏休みを利用して故郷で過ごす

ことになつた。この前の手紙で、五月十九日にニューヨークを離れるとあつたので、この手紙はその前日に書かれたものである。自分の秘書にしていたコヴァルジーケ青年がニューヨーク・フィルハーモニー交響楽団へ、恐らくドヴォルジャークの紹介で入団出来たのである。そのことを彼の父親に知

八千マルクは、これら三曲の代金として受け取りました。私はそう解釈しているのです。歌曲集とソナチネと組曲で八千マルクを要求します。どんなことがあってもお金を受け取る訳にはゆきません。要求に基づいて返送します。これらの譲渡に承諾のサインを致しませんので、差し当たり印刷を中止してください。

## 価格交渉強気の駆け引き

いせる。必要がおいたのである。因みにこの男の名前も父親と同じらしい。《ヤン・ヨゼフ》といふ

ドイツ語(

ヴィンカーニ一八九四年八月二十五日

『大事なジムロック様！

あなたが私に書いてくれた幹鶴に対して、私は作品を渡すつけこは参りま

私的作品を添ておにいに参りませ  
せん。私がニューヨークから出した手

紙では、ソナチネと歌曲十曲と。ピアノ

のための組曲、それに《テ・デウム》

あなたに送つていません（これは二

千マルクの積もりでいます)。ですから

「親しきジムロツク様！」

あなたが一八九四年九月九日に出され

と。ピアノのためのソナチネと十曲の（聖

書の歌》とピアノのための組曲に関する

報酬問題の食い違いを是正したいといふ話こ泓は満足して、ま。も（もこれう

三曲に（私の思い違いであつても）跡か

ら三千マルクを支払つてくださいるなら  
ハミ  
ギ  
ツ  
ハ  
ミ  
シ  
ム  
シ  
ム

トルは多分（ユーモレスク）を四千マル

クで提供出来るでしょう。『きげんよう』

卷之三

出版社ジムロツクとの商売上の駆け引

きが行われている。ドヴォルジャーク

は自分の作品の評半かよし」とで強気になつて、相手を振り回して、る様子

が見られる】

◆お断わり 半場久也先生の遺稿は、  
7月30日、東京駅にて。

37回まであり順次掲載します

一八九四年九月十九日  
ブラー